



色覚多様見本帳

専門学校浜松デザインカレッジ
山崎朱梨（静岡県）



色覚多様見本帳

工夫点

見やすいようにすべての文字をUDフォントにしたほか、触れる機会が多いPCCS（日本色研配色体系）を対象とすることにより、使用性を高めて多くの色の色覚多様を理解できる。そして、それぞれのカラーコードにより簡単に色を構成できる。

色覚多様の認識だけでなく、それぞれのグレースケールを表示することにより全体のコントラスト調整ができる。

コンセプト

誰でも一眼で色覚多様の色がわかる色見本帳

デザイン制作の際に一般的な色彩だけでなく色彩多様性の方々にも伝わるような色彩を意識し、色彩多様性を身近に感じさせる用途として作られたものであると同時に身近にあることで子供に関わる教育者にも簡単に手が届き理解及び対策の手段になる。



ターゲット

見本帳を利用するデザイナー
美術や色覚を専門とする教育者

使い方

既存の色見本帳と使い方は同じであり扇子のように開くことにより色を見ることができ。

PCCS トーンをそれぞれの色で見え方別に分けたもの。
上から Normal（一般色覚）、Protanopia（1型2色覚）、Deuteranopia（2型2色覚）、Tritanopia（3型2色覚）、グレースケール及び Achromatopsia（1色覚）となっており1つの一般色を見ただけで色覚多様の見え方さえもわかる。デザインや色彩の組み合わせの際に色覚多様性の方への配慮が行いやすくなる他、それぞれの色のグレースケールがわかるのでコントラスト調整にも役立つ。教育者が所持していれば子供が見やすいはっきりとした色合いを簡単に探すことができ、色覚多様性の子供がいた時の対処も即座に行うことができる。

講評

ありそうでなかった、誰でもひと目で色覚多様の色がわかる見本帳として形にした行動力を高く評価した。審査委員の方々からはデジタルでなく、見本帳にすることですぐに比較できること、情報を共有できること、

教育ツールとしての可能性が感じられることなどの多くの意見や感想が出た。印刷業界のMUDとして象徴的な作品という点で高く評価した。今後、商品化を実現できることを期待したい。